

## 苦樂以上の問題

私は断じて苦におちいれと言うのではないのです。

私は「樂ばかりを求めるよりも先に、人間でありたいと求めよ。」と言うのです。

私どもが人間であるためには、時には苦をも忍ばねばなりません。

いかに楽しんだかということが、あなたに苦をも忍ばねばなりません。何よりも先に人間として成功したか否かが問題です。

私が光明団をはじめから十五年になります。一日として苦を感じない日はありません。一方には多くの人たちが理解して命まで投げ出して力となって下さるかわりに、一方には厳しい武装をして私や光明団を根こそぎ葬ろうとする方々があります。「苦しい」それが嫌ならば、今日からどこかの事務員にでも使ってもらって、ささやかに暮らしたらいいのです。また私は貧しい。いつもお金に困っています。それはあまりにも大家族だからです。それと別れてしまつて、こんな事業をやめてしまえばいいのです。しかし、苦樂の問題よりも、私には私の使命があり、果たさずにはいられぬ理想があります。

あなたが持つている問題は、眼のつけ所がちがうのです。苦樂よりもまず、私はあなたにお問いしたい。あなたはあなたの本願や使命を見出すために、苦しんだことがあるでしょうか。あなたが困っているのは苦樂の問題ではなくて、光が見えぬのです。行くべき道がはつきりしないのです。自分の居所がわからぬのです。それさえわかつた人は、どんな苦惱も超えてゆきます。

私にもし光明団を捨てて、他に私のゆくべき道が見出せたならば、私はまたいかなる苦惱が待つていようとも出てゆかなければなりません。使命や道は苦樂以上であります。

「でも私にはとてもそんな道なんか見あたりません!」

そう言うのでしょうか。それが弊悪卑怯です。天日は万人の上に輝いています。あなたにだけ光への道が閉ざされている理由がありません。今は「永遠の微笑」を持つて、勇士のごとく生き切っている人たちも、かつて一度は皆そう申しました。その心一つだけ打ち破つて、まず強く自信を持つのです。あなたには、あなたよりほかにだれにもまねのできない光があります。牡丹は美しい。しかし道ばたも、野も山も、牡丹だけでもあつたならば、きつと飽きるに決まっています。春の野に、桜も咲けば、すみれ 堇も咲く、小さい堇がはたして悪いのでしょうか。名もない草ですら、春の日に不平なしに笑っています。そうできているのが自然です。平和と恵みとよろこびが野原一面のすべての草の上に踊っています。人間にだけ、富や地位でこの自然の大法則が無視されていいものか。それは決して自然の意志ではなくて、人間の無知が造つた、はからいのです。疑惑です。あれを見よ! 嬰兒を見よ。そのだれに上下があり、疑惑があり、はからいがあるか。

人生評価の尺度を幸福におくか、人格發揮、自己完成におくか、まず沈思黙考して明確に決定すべきです。